

第79回 全国都市問題会議

立志会 小林昭式

開催概要

日 時

第1日目：平成29年11月9日（木）

開会9：30（会場・受付 8：30）

第2日目：平成29年11月10日（金）

開会9：30（会場・受付 8：30）

場所

那覇市 県立武道館

主催

全 国 市 長 会

公益財団法人後藤・安田記念東京都市研究所

公益財団法人日 本 都 市 セ ン タ ー

那 覇 市

協 賛

公益財団法人全 国 市 長 会 館

日 程

第1日目：平成29年11月9日（木）

8：30 受付・会場

9：30 開会式

9：50 基調講演

【多様性のある江戸時代の都市】

山本 博文 東京大学市史編纂所教授

11：00 主報告

【ひと つなぐ まち】

城間 美紀子 沖縄県那覇市長

12：00 （昼食）

13：10 一般報告

【人口減少社会の実像と都市自治の役割】

山下 祐介 首都大学東京大学院人文科学研究科准教授

14:40 一般報告

【自然と都市が融合し共生が地域の価値を高めるまちづくり】

蝦名 大也 北海道釧路市長

15:50 一般報告

【新たなステージに入った沖縄観光】

下地 芳郎 琉球大学観光産業科学部長・教授

17:00 (終了)

第2日目：平成29年11月10日(金)

8:30 会場

9:30 パネルディスカッション

コーディネーター

後藤 春彦 早稲田大学理工学術院教授

パネリスト

能作 千春 株式会社能作

藤田 とし子 まちとひと 感動のデザイン研究所代表

平田 大一 沖縄文化芸術振興アドバイザー

山岸 正裕 福井県勝山市市長

染谷 絹代 静岡県島田市市長

11:50 閉会式

12:00 (昼食)

13:00 行政視察(那覇市主催)

★【多様性のある江戸時代の都市】

江戸時代のまちづくりが現在の日本の町の原型を作った。江戸・京都・大阪「三都」と言われ、京都は朝廷の所在地、寺社の本山があり手工業の町。大阪で世界初の米市場先物取引が行なわれた。江戸は徳川家の城下町、大名が国元と江戸を隔年に往復する参勤交代の制度は、街道と宿場町を発展させ、これにともない江戸に人口が集まり武家人口が飛躍的に増加、武家の需要に応じるため商人・職人も人口増えていった。参勤交代により街道や宿場も整備され、人の移動がしやすくなり全国的に陸の流通網・海路の港町も整備された。

★【ひと つなぐ まち】

都市化の進展や市民意識の変化から、市民と行政を結ぶ核だった自治会は、高齢化・次世代の担い手不足により役員のなり手が無く加入率が低下。市民に「新たなコミュニティ」の在り方として、自治会やPTA、NPO、企業等地域の団体や個人で構成する

「小学校区まちづくり協議会」の設立支援。点から線。線から面への取組を、地域自ら課題の把握及び解決を図ることができるコミュニティの広がりを進めていく。

★【人口減少社会の実像と都市自治の役割】

東京一極集中によって人口減少は引き起こされ地方とのバランスが崩れている。地方においては高齢化が進み若年層は仕事のある大都市へ出てしまう。人口減＝財政難でも持続可能なインフラ・サービスを確保すべき。どこにいても安心して暮らせる社会を実現することである。東京では「東京で稼いだ金を地方に使うのはおかしい」との考えがある。地方から見ればモノを生産しているのは地方であり、本社が東京にあり生産してなくお金（財）だけが集中しているだけ。人口減少社会に向き合うことが最大の課題であり住民参加と連携、協働の政策づくりが重要である。

★【自然と都市が融合し共生が地域の価値を高めるまちづくり】

釧路市は世界一級の観光地づくりの目標を設定し「観光立国ショーケース（平成28年1月）・国立公園満喫プロジェクト（平成28年7月）」ショーケースは、外国人旅行者を地方へ集客する事業。国立公園満喫プロジェクトは、阿寒国立公園でナショナルパークとし訪日外国人を集める。自然を生かした取組報告。

★【新たなステージに入った沖縄観光】

観光とは何か？UNWTOの2015年調べにおいて、レジャーが53%、知人親戚訪問等が27%、ビジネスが14%、その他6%となっている。訪日外国人も2割はビジネス目的。ツーリズム（tourism）の視点を持ち観光振興に取組む必要がある。歴史的経緯から「琉球（沖縄）」「日本」「中国」「アメリカ」という4つの顔を持つユニークな都であり日本とアジアをつなぐ拠点としての取組みに加え「観光は平和へのパスポート」として世界の平和研究・国際交流の取組みとしたい。

★ パネルディスカッション

【ひとつがつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略】

コーディネーター

後藤 春彦 早稲田大学理工学術院教授

パネリスト

能作 千春 株式会社能作

藤田 とし子 まちとひと 感動のデザイン研究所代表

平田 大一 沖縄文化芸術振興アドバイザー

山岸 正裕 福井県勝山市長

染谷 絹代 静岡県島田市市長

山岸 正裕 福井県勝山市長

21世紀を迎え「豊かさ」の尺度が変わり、価値観が多様化するなか、新しい価値観その見直しにおいて勝山市は「復興・再生」において、独自の自然・風土、景観・環境、歴史や伝統、この地特有の文化とコミュニティによって成り立っている地域の力、地域住民が再発見し、地域の誇りにつなげたいとかがえた。

まちづくりの理念と構想「あなたと一緒に21世紀の勝山をつくります」新しい価値観「ふるさとルネサンス」を理念とし具体的事業を推進した。

染谷 絹代 静岡県島田市長

地域住民との協働による「地域の魅力創出」大井川中流域の滞在型観光、地域資源（川根温泉）を取り入れた地域の魅力を活かした観光施策を展開している。少子高齢社会に対し、企業との連携により民間の資金・ノウハウを活用し、市民生活や地域経済活動に必要な公共施設整備や質の高いサービスを提供する取組を行なっている。

平田 大一 沖縄文化芸術振興アドバイザー

感動立県おきなわを目指して

沖縄の新しいシゴトノカタチとして「文化を基調とし、農業、林業、漁業、環境、健康、福祉、観光、教育など横軸でつなげ展開する」文化と最もあうのが観光分野であり「観光産業」は「感動を体験する産業＝感動産業」と位置づけとした。「文化・芸術のための人づくりを行なうのではなく、人づくりのために文化・芸術を活用する」という考え方を持った。

所感

東日本大震災以後、「ひとがつなぐ」言葉を変えていうと、絆の重要性が改めて認識された。人と人の関係性は、多様なさまざまな人がいます。経済的なゆたかさの人達だけでなく、社会的な孤立に追い込まれかねない人々を含め、一緒に暮らしていくために都市やまちのゆたかさのつくり方において大切なものを分かち合う時代感覚がもとめられている。東京一極集中是正、地方の活力を上げ、人口減少に歯止めをかけるため、ひと・まち・しごと「地方創生」。全国で施策が展開され地域社会の持続可能な実現にむけ取組んでいる。人口減少に歯止めをかけることは容易でなく、高齢化により計画が進まない地域も少なくない。田園回帰、ローカル思考の若者が増え、地方の自治体では「地域おこし協力隊」の募集をしているところもあり。しかし、まちづくりは地域に暮らす人が人材を育てていかなければいけない。

地域の創生は、心豊かに暮らすこと・地域経営において「みんなのサードプレイスづくり」。埋もれていた地域価値・地域資源を見出し取組むことが大切である。そのため

には、まちづくりに取り組むために地元の若者の人材育成が不可欠になってくる。第一の場所・家（ファーストプレイス）、第二の場所・職場・学校（セカンドプレイス）「安らぎ・にぎわう・住みやすさを誇れるまち」サードプレイス（第三の場所）これまで出会ったことのない人と人とのつながりの場所。未来を担う子ども、子育て世代の母親さんたちが気兼ねなく集える場所。交通の要所ある当市において市内を点から線へと回遊できる観光整備、まち歩きできる観光づくりの取組をすべき。